1　チーム名（研究対象領域・教科） 小学部　国語	
2　メンバー	小学部教員５名
3　チームのテーマ 読み書きができる平仮名を増やすための授業作り	
4　対象児童生徒に願う主体的な姿 対象児Ａ（小学部６年重複障がい学級） ・思いや要求を伝える際は、指差しや教師の手をひいて伝えることが多いが、徐々に「やってください。」などと言葉を添えて伝えることができるようになってきた。 ・平仮名に対する興味関心はまだ低いが、徐々に読み書きできる平仮名が増えてきた。 ・自分から進んで取り組む姿が見られることはまだ少ないが、教師の指示や言葉かけを受けて、学習に取り組んでいる。 ⇒学習の中で教師とやりとりをしながら、自分から教材に手を伸ばしたり自分で学習の順番を決めたりしながら学習に取り組んで欲しい。	
5　研究仮説① 「できた」という実感がもてるような評価や、児童の興味関心に合った評価の方法を工夫することで、進んで学習に取り組むことができ、読み書きできる文字が増えるのではないか。 6　研究実践の内容① 教師から渡された学習プリント等には、淡々と取り組む。学習に受け身的。評価の工夫をすることで、学習に積極的に取り組む気持ちを導きたいと考えた。 （1）学習に取り組むことができたことへの評価（児童が興味あるものを活用する。） 〇学習の最後に「がんばったね」とシールを貼るようにした。 ↓ たくさん貼りたい。…シール貼りが活動の流れの一つになってしまい、本児にとって、課　　題ができたという達成感や学習への意欲につながっていない。 学習の流れを理解し、学習プリントが入っているケースに手を伸ばし、教師にプリントを要求する。 ↓ 〇「できた」という達成感につなげたり、課題に対する評価であるという意味を持たせたりするために、１題につきシールを１枚貼るようにした。 ↓ シールは欲しいので課題をこなすが、丁寧に書くという様子が見られない。 ⇓ （2）正解したこと、ていねいに書くことができたなど課題達成したことへの評価 〇対象児にとってより興味関心が高く、必要性のあるものを評価に活用できれば、意欲づけになるのではないかと考えた。学習が終わってから休み時間に遊ぶことができるようＡ児が好きなペットボトルのおもちゃを評価に使うことにした。 〇課題が１つ終わったり１題正解したりするごとに、ペットボトルにビーズ等を１つ入れ、学習が終わるとおもちゃができあがるようにした。 ↓ 11 月末：書き方がまだ雑である。 ↓	

○正解や「できた」ことを本児が実感できるよう、不正解の時やできなかった場合はその分のビーズを別の箱に入れ、正解の時のみ、ペットボトルに入れることができるようにした。平仮名を「書く」では、ていねいに正しく書けた際にビーズ等をペットボトルに入れることにした。

↓

12 月：課題がひとつ終わると自分から次の課題に手を伸ばし、進んで取り組む様子が見　られ始めた。また、平仮名の「読む」では考えてカードを選び、「書く」では、ゆっくり線をなぞったり、手本を見て平仮名を正確に書こうとしたりする意識が高まってきた。教師の顔をのぞきこんで自分が課題をがんばったことの評価がどうなのかを確かめる動作も見られるようになった。

7　研究仮説②

児童の興味関心のもてる教材の工夫をすることで、さらに意欲的に学習することができるのではないか。

8　研究実践の内容②

（1）「読む」の学習では、本人の名前や好きなもの・身近なものの名前を中心に、「書く」の学習では、単純な字形から取り組んだ。

（2）シールを貼る活動が好きなので、その活動を取り入れた。

（3）自分で選ぶ場面を設けた。

（4）段組みの引き出しを利用し、学習の順番を自分で決めたり終わりの見通しをもてたりできるようにした。

「読み」の例：・色の名前　「あか」□ ← 読んで赤いシールを選んで貼る。

・ものの名前「さる」□ ← 読んで選択肢の中からサルの絵を選んで貼る。

↓

(問題と正解を線で結ぶ（書く）ことを、得意なシール貼りに変えたことで、「読む」に集中できるようになった。課題に進んで取り組んだり、数種類の課題にも集中が途切れずに取り組んだりする姿が見られるようになった。

「書く」の例：「し」「ひ」「つ」「の」「く」「へ」「て」「そ」「ろ」「る」のなぞり書き

↓

なぞり書きに抵抗なく取り組んできた。また、きれいな字と雑な字の違いに気づき、ゆっくり丁寧に書くことができるようになってきた。

9　成果と課題

学習に受け身だったA児が、自分から課題に取り組んでいくことができるようになることが、平仮名の読み書きの習得につながると考え、「学習の評価」と「教材の工夫」の面から仮説を立てて実践を進めた。

文字の学習において、「読む」「書く」自体の評価（正しく読めた、丁寧に書けた、正しく書けた）を児童に示すことで、課題に真剣に向き合う姿勢ができた。（本人は好きなおもちゃが欲しいということを目標にはしている。）自ら、やりたい教材に手を伸ばす姿が見られている。また、自分の学習の評価を知ることで、積極的な学習への取り組みにつなげることができた。さらに、正しい読み、正しい書き方を積み重ねた結果、読める平仮名や書ける平仮名が増えてきた。

また、「読む」「書く」それぞれに集中できるような教材を整理、工夫したことは学習の目標が明確になり、平仮名の習得につながってきているかと考える。

今後も積み重ねにより、「考える」「丁寧に行う」ことで、児童自身が「できた」と実感することにつながって欲しい。また、学習の場面だけでなく、日常生活の中で読んでわかったり、行動したりすることにつなげていくことが課題ととらえている。